

学校経営ビジョン

“「つながり」を学ぶ そして、学ぶことを「喜び」に”の実現を目指す学校

◎（知育）つながりを学び、生かすことを通して、思考力・判断力・表現力を磨き、物事に対する見方・考え方や学ぶことを喜びとを感じる心を育む。＝重点：学習意欲の向上

1 ICT機器を活用した授業改善及び家庭学習の充実→個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実へ

- 一人一台配付のタブレットを有効活用する。(授業での活用、家庭学習での活用)
- 集合学習において、ユニット学習(複式解消)の有効性について先行検証を行う。

2 物事(人・事象)のつながりに着目した学習→意義や役割を見出そうとする学びへの転換

- ものの見方、考え方を育むためには、単発的な学習ではなく、意図的・系統的な学習を展開していく必要がある。物事(人・事象)はすべて目的や意義等により、つながりがあることを学ばせたい。そのことで、物事の本質やそれぞれのもつ役割の大切さを見出すことができると考える。これは、多様化する社会、SDGs等、未来を切り拓く子ども達に身に付けさせたい資質・能力である。

〈“つながり”を意図した学習内容例〉

- ・国語:段落どうしのつながりとその役割、文章構成、接続語、具体と抽象、物語の伏線と主題……
- ・社会:歴史、公民、交通、流通、文化、産業、国際交流……人や物がつながっているからこそ成り立つもの
- ・総合:椎葉村学→ふるさとの伝統文化・芸能学ぶことを通して、つながりとは何か、自分はどのようにつながっていきたいのか等を探究する。

3 学習の基盤となる態度や能力の育成に向けた組織的取組→学びのスタンダードへ

- まずは、「聞く」を徹底して指導する。そのために、立腰は欠かせない。また、鉛筆の握り方、話形等、学習の基盤となる態度や能力は最小限に整理し、徹底指導を行う。
- 学力向上に向けた取組(個に応じた指導を含む)を意図的・組織的に行う。

★ 児童が変容しての、「指導」であり「実践」である。

- できるまで見届ける指導を行う(笑顔で励まし、できたら共に喜ぶ)
- 小さな成長を認め、伝える(可視化:Before・After→自覚に)

★ 継続は力なり

- 小さなことを、気軽に、短時間に、毎日こつこつと取り組む

◎（徳育）つながりを学び、生かすことを通して、自己有用感を高めるとともに、感謝したり貢献したりする心や態度を育む。＝重点：思いやりの心、向上心の育成

1 相手意識・目的意識のある礼儀作法の習得(挨拶、会釈、言葉遣い)→良識ある社会人へ

- ただ「挨拶しなさい」「会釈をしなさい」と言うだけでなく、何のために挨拶や会釈をするのかという目的や意義、どのようにしたらよいのか(相手意識)を考えさせた上で、実践させる。

2 異世代、地域住民との交流の促進→様々な共同体への所属意識と自己有用感の高揚

- 開かれた教育課程、教員の働き方改革等の視点から、保護者を含む地域住民の「教育の当事者」としての意識高揚を図り、「教育(人づくり)は学校だけが担うものではない＝学校観の変革」という風潮を高めていく。→コミュニティ・スクールと連動させ、地方創生(持続可能な社会の構築)の取組と一体的に推進していく。

3 児童の実態に基づいた道徳教育、人権教育、キャリア教育の充実→多様性の理解と順応

- 人間関係や友達の見方が固定されがちな子ども達へ、「人は成長する(変わる)」ということを具体的に教えることで、可能性を尊重したり、偏った見方を改めたりすることの大切さを伝えていく。
- 多様化する社会を生きていくために、「知る・気付く」→「考える・議論する」→「暫定的な理解・判断のものさし=価値観を得る」のサイクルを重視した学習を展開しながら、多様性を認め、正解ではなく納得解を追究しようとする資質・能力を身に付けさせる。

★ 学級経営の極意は「笑顔」である。～先生は、いつでも笑ってくれる～

- ピシッと叱っても、笑顔で締める。
- 笑顔は「あなたを認めているよ、受け容れるよ」の意思表示です。

★ 褒めるときは本気で。そして、「価値付け」してあげることが重要。

★ 正論よりも、相手意識を優先して。～伝わらなければ、ひと工夫を～

◎ (体・食育) つながり学び、生かすことを通して、将来にわたり、健康な心と体を保持増進しようとする意識と態度を育む。=重点: たくましい心と体の育成

1 体力向上プランを活かした体育科の授業改善と日常運動(ジョギング、縄跳び)の推進及び健康・衛生保持のための生活習慣の定着と各種検査後の治療率向上→自己管理能力の育成へ

- 集団行動の基本的様式(姿勢・礼・方向転換等)の定着。個人行動への波及。→儀式的・体育的行事等で、日頃の成果を発揮させる。
- 体力テスト結果の弱点補強を体育科授業や日常運動に取り入れる工夫を行う。前年度の結果を上回るための「個への指導」を工夫する。
- 生活習慣の定着のために、早寝と朝うんち、メディアコントロールに絞って指導・家庭への啓発を行う。
- 養護教諭と連携した保健学習の実践。→がん教育(小児生活習慣病の予防)、性教育の充実を図る。
- 各種検査後の治療率を90%以上にする。

2 食に関する指導(「弁当の日」を含む)の充実→地産地消、地元の食文化の継承へ

- 家庭や栄養教諭と連携した食育の実践。→食の大切さ及び地産地消、地元の食文化の継承の視点を取り入れた実践に。

3 自他の安全を守る行動についての理解促進→危険予知・回避能力の育成へ

- 児童とともに安全点検(担任の担当場所及び遊具)の実施。
- (形骸化を防ぐために)児童に考え、判断させる避難訓練の実施。
- 「～したらダメ、危ない」と教えることで終わらない、中・高学年向けの発展的な指導の工夫。

◎ (家庭や地域との連携・協働) つながり学び、生かすことを通して、地域とともにある学校づくりと学校を核とした地域づくりを一体的に推進する。=重点: 社会に貢献する人づくり

1 地域教材・人材を活用した教育活動の充実、豊かな体験活動・交流活動の推進及び伝統文化の継承活動→ふるさとのよさに気付き、ふるさとを愛する心の醸成(心の拠り所づくり)

- 村教委と連携した体制整備。→地域コーディネーター(地域学校協働本部)や学校運営協議会の機能化を目指す。
- 「総合的な学習の時間」の年間指導計画の見直し→ふるさとのよさ、ふるさとへの愛情を自分の言葉で語れる児童の育成を目指して段階的な指導を行う。